

新宮高等学校

実施日時	令和3年 11月 24日（5限～7限）
参加者	生徒192名、教職員14名、計206名
実施内容	搬送法 心肺蘇生法 土嚢積み ロープワーク ライフハック 地震体験車 JRによる避難方法等

ねらい

県教育委員会主催の「県高校生防災スクール」事業の一環であり講義や訓練を通して高校生の防災意識を高め、地域防災のリーダーとして災害時に活動できるような生徒の育成を目的とする。

主なプログラム

- 1 消防による心肺蘇生法と傷病者の搬送法
- 2 自衛隊による災害時における防災訓練
- 3 JRによる避難訓練講話・地震体験車

概要

- 1 JRが防災講話を体育館で実施
- 2 1学年生徒192名が各クラスに分かれて消防・自衛隊による講習に参加
- 3 各クラス5名地震体験車（ごりょう君）で体験を行う

参加者感想文

・協力して取り組むことができ、身近な物で防災グッズを作成することができたので、ためになった。

○搬送法

- ・毛布を使って、人を運べることを知らなかった。被災したとき、教えていただいた方法で人を助けられるようになりたい。
- ・毛布で人を運ぶ方法は思ったより搬送しやすかった。

○ライフハック

- ・普段の生活では当たり前のように使っている電気や水などが、避難時には入手困難になるということを改めて理解しました。身近にある物でも、使い方を工夫すれば役に立つということを学びました。
- ・最近、和歌山市の方で水道管が壊れて水が止まってしまうことがあったため、水がない生活をとて身近に感じ、今回習った水をきれいに保つ方法をいつか活かしてみたいです。

○地震体験車

- ・地震を生で体験したことは数回ありますが、どれも小さな揺れだったので震度7近くまでの揺れを体験して地震の恐ろしさを改めて実感した。
- ・小さな揺れでも、自分が座っていたいすが、ガタガタとなりとても怖かった。震度5～7になると身動きがとれないほどの揺れで、映像では家具が倒れていた。今回の体験から、しっかりと家具を固定しておく必要があるとわかった。

○土嚢積み

- ・自分たちの住む地域も危険度の高い台風が多くなってきているので、今回これから役立つようなことを細かく学べて良かった。
- ・普段やったことがない土嚢積みを初めて体験し、大変でしたが楽しく取り組むことができたと思います。見たことがあっても作り方を知らなかったなので、とても勉強になりました。

○ロープワーク

・ロープの結び方が難しく、覚えていられるかが不安でしたが、これは火災でも水害でも役に立つ知識だったのでもう一度、自分でも調べて方がーのときのために覚えておきたいと思いました。

・ロープの結び方が複雑で難しかった。結び方を性格に覚え、実際に災害が起きた時に役立てたい。

○JR 講話

・普段からよく利用している電車ですが、災害が起きた時の対処法を知らなかった。今回 JR の方が講演に来て下さったため、安心して電車に乗ることができます。

・通学で電車をよく使うので、避難はしごや手動でドアを開ける方法を知ることができ良かったです。



成果と課題

【成果】

日頃の防災意識を高めることができ、一人一人が協力し合い、積極的に取り組むことができた。どの体験も災害時に役立つものばかりであったので、生徒にとっては非常に貴重な機会となった。

【課題】

感染症対策をとりながらの実施となったため、全員がすべての防災体験に取り組むことができなかった。一つでも多くの体験ができるように今後工夫していく必要がある。

